

平成 28 年度 第 5 回 別府市公共交通活性化協議会
議事録

日 時：平成 29 年 1 月 31 日（火） 16：00～16：50

場 所：別府市役所 1 階 レセプションホール

出席者：別紙出席者名簿のとおり

◆意見要旨

1 報告

(1) 臨時会（書面会議）の議決事項について

*事務局が説明。（説明内容省略）

2 議題

(1) 別府市地域内フィーダー系統確保維持計画の変更について

*事務局が説明。（説明内容省略）

会長 : JR 亀川駅を発着する循環線を新設した。広報用の資料のとおり、医療センターで診察後、マルショクで買い物してスパランド豊海に帰れるようになった。

委員① : 運賃の補足となるが、従来の系統は最大 150 円の運賃となり、今回の見直しもそれを踏襲する。支局にも確認したところ、事業者の申請のみで通るとのことであった。

1 月 21 日に開催した住民説明会では、行政の補助の内容について御報告等を行い、住民は大変喜んでくれていた。

(2) 別府市地域公共交通網形成計画推進事業及び別府市地域公共交通再編実施計画策定調査について>

*事務局が説明。（説明内容省略）

委員② : 19 ページのスケジュールについて、アクションプランの全体像を把握しながらタクシー事業の話がしたい。

重点の①東山地区については、現在、実証実験を実施しているが今後の具体的な実行計画について、東山地区のみで良いのか。他地区は考えないということで良いのか。

事務局：小坂地区・大所地区など、他の中山間部も含めて検討したい。

委員② : 路線が限定されている。

事務局：乗合タクシーのエリア拡大については、重点①ではなくて重点⑥で検討することとなる。

委員②：バスとタクシーが全体像を把握しつつ、アクションプランの進捗を高めていく必要がある。

委員③：⑥についてだが、著しく利用者が少ないバス路線の運行効率化とあるが、全くサービスをゼロにすべきではない。運行持続性を優先して利用がみられる便のみの運行すると書かれているが、その他の便についても交通弱者の移動手段としてきちんと確保していくべきである。

事務局：肝に銘じたい。

委員④：もともと再編実施計画を策定するはずだったと思うが、事業を説明して欲しい。大分県の歩調を気にされていると思うが、どうなれば別府市の再編実施計画が出来上がるのか。別府港は部会として報告をまとめている。まとめの中では、フェリー航路は2つあるし、バス便も比較的豊富であり、人の流れが活発化することが期待される。事業者間の連携や船内や上屋などでの二次交通との乗継利便性を高めることを盛り込んでいる。二次交通の乗継円滑化に向けて来年度も会議体を持ちつつ、取組を推進していく考えである。

事務局：1年かけてアクションプランをブラッシュアップして、再編実施計画を検討していく予定である。

委員④：県では交通圏単位で順次取りまとめており、県央として大分市・別府市・由布市で、早ければ再来年度作ることが考えられる。タイミングがあれば、県と連携して作れると良い。国からの補助金はもらっているのか？国との関係は良いのか？

事務局：アクションプランでも調査費の補助金交付については問題ないと支局から回答を得ている。

会長：H30年度に向けて再編実施計画として取りまとめていく方向になる。

委員⑤：大分県の長期計画である「九州の東の玄関口としての戦略会議」では、別府港を海の玄関口として、そこから広がる交通網を検討し、とりまとめは終わっている。3月末には答申として知事にお渡しすることになっている。地域の方には細部の動かし方の仕組みや施設、周辺のあり方などを協議する場を設置する。次年度以降取り組んでいく。県の計画の話がでていますが、国東・杵築についても見ておかなければならない。

委員④：東部圏ということで分けて考えているが、2つのエリアを同時並行にするのは厳しいので、優先順位を付けながら1エリアずつやっているところである。最短が30年度であるので、先に東部を検討する場合もある。国東から別府にかけては国大線が通っているなので、その交通圏に着目しながら現在調整中である。

委員⑤ : 県の計画の中に、市の部分も相当程度書き込まなければならないことになる。つなぎ方は気をつけなければならない。アクションプランについて、地域を特定すること、誰がどう動くか、を書き込むべきでる。

事務局 : 最終的には書き込む方向である。

会長 : 承認でよいか。

各委員 : 異議なし。

事務局 : 今回は3月末である。日程は後日お知らせしたい。

3 その他

4 閉会